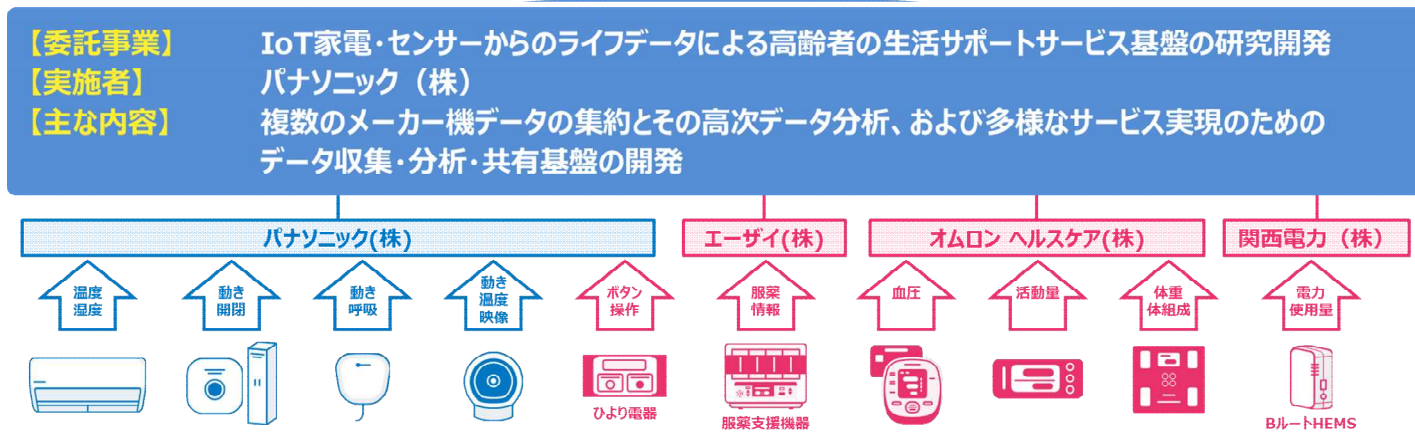
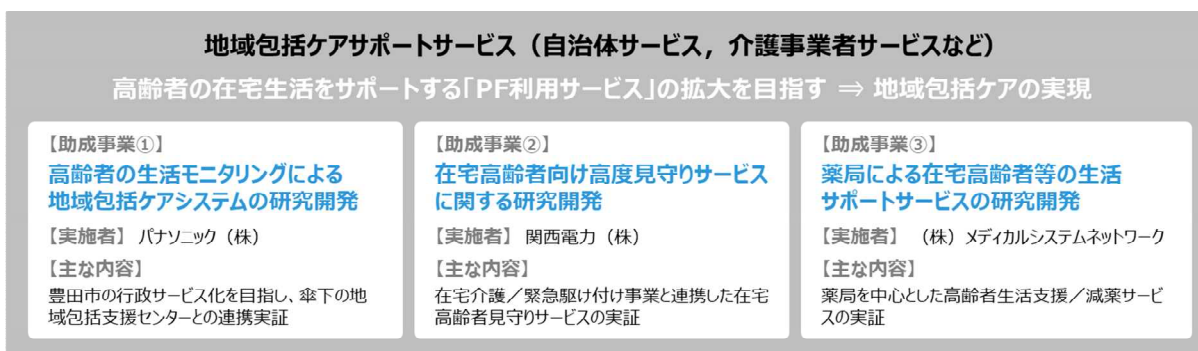


## IoT技術を活用し、在宅高齢者の生活サポートサービスを実現

実施者名	パナソニック株式会社
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT家電／センサー情報を集約するとともに、高齢者の生活をサポートするための高次データ処理を行うためのデータプラットフォーム（以下、データPF）を構築する。また、本データPFから供給される情報に基づき、地域包括支援センターや訪問介護事業者などによる高齢者の生活をサポートするためのサービス創出を目的とする。</li> <li>具体的には、①行政（地域包括支援センター）、②インフラ事業者、③薬局による在宅高齢者サービスとしての実証を行い、その効果を検証する。</li> </ul>
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT/AI技術により、在宅高齢者の生活実態や健康状態、服薬確認を介護専門職などに提供することで自立支援に向けてケアプランや支援計画を立案する</li> <li>24時間の状況確認、緊急時の駆けつけ、多剤服用の抑制などにつなげ、自立した在宅生活を可能とするサービス群の創出</li> </ul>

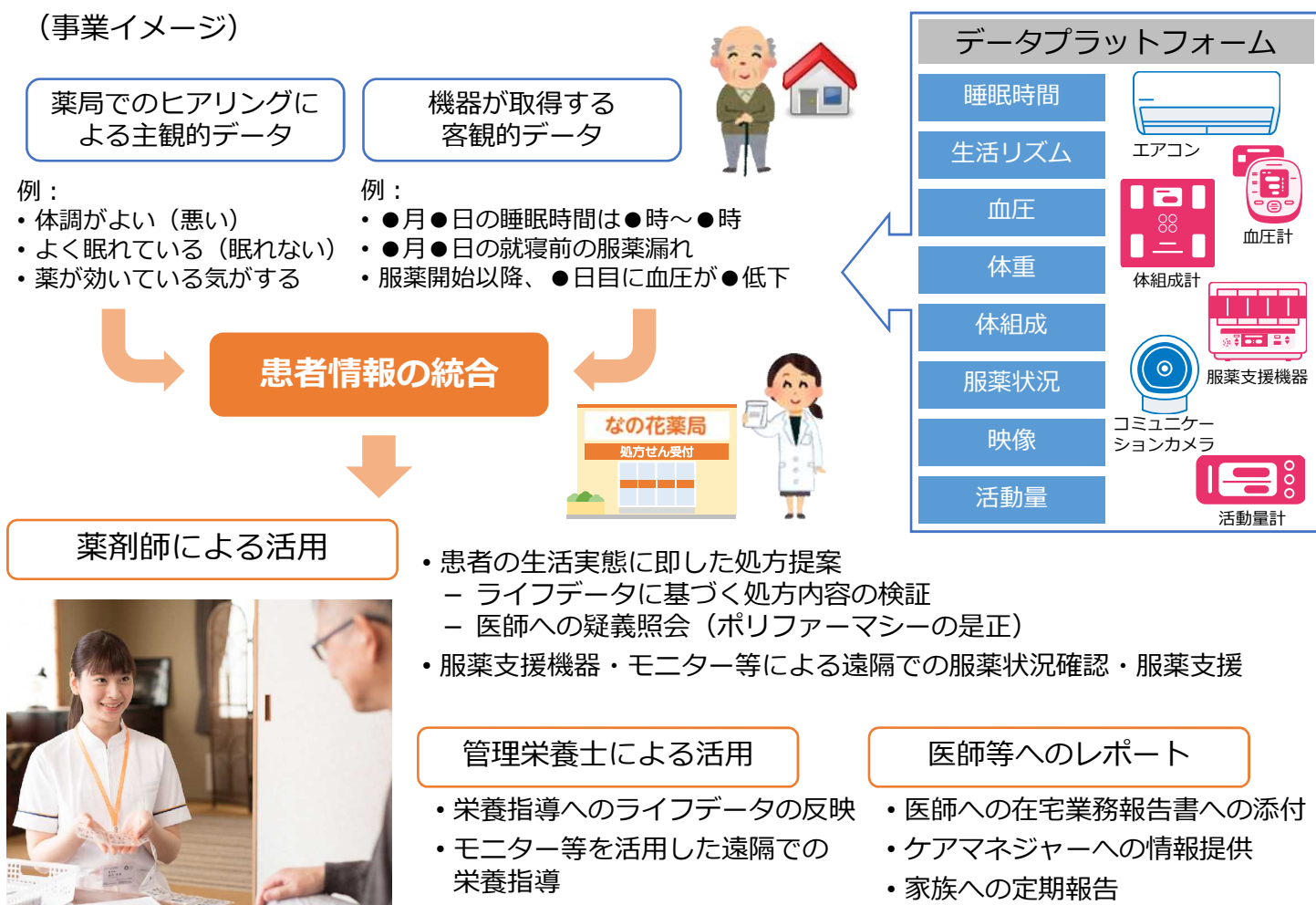
### （事業イメージ）



## 多面的・継続的なライフデータの活用により、複合的な患者情報に基づく薬局による薬物治療・生活支援を実現

実施者名	株式会社メディカルシステムネットワーク
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>データプラットフォームから提供される、患者の服薬状況や生活リズム、バイタルサイン等のライフデータを、在宅医療に取り組む薬局薬剤師等が活用するための情報システムを開発する。</li> <li>ライフデータに基づき、薬剤師が患者の生活像に合わせた処方内容の適正化（ポリファーマシーの是正）を図る。また、医師やケアマネジャー等への情報提供により、地域包括ケアシステムを支える多職種の連携を支援する。ライフデータを用いたレポートにより患者家族への定期報告等を行う。</li> </ul>
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の記憶や主観に依拠したヒアリング情報に、客観的なライフデータが加わることにより、服用薬剤の効果や副作用の検証精度が向上。</li> <li>服薬支援機器やモニターの活用により遠隔での服薬状況確認も可能に。</li> </ul>

### (事業イメージ)



## 自立した在宅生活を可能とする高齢者支援サービスで 地域包括ケアシステムを実現！

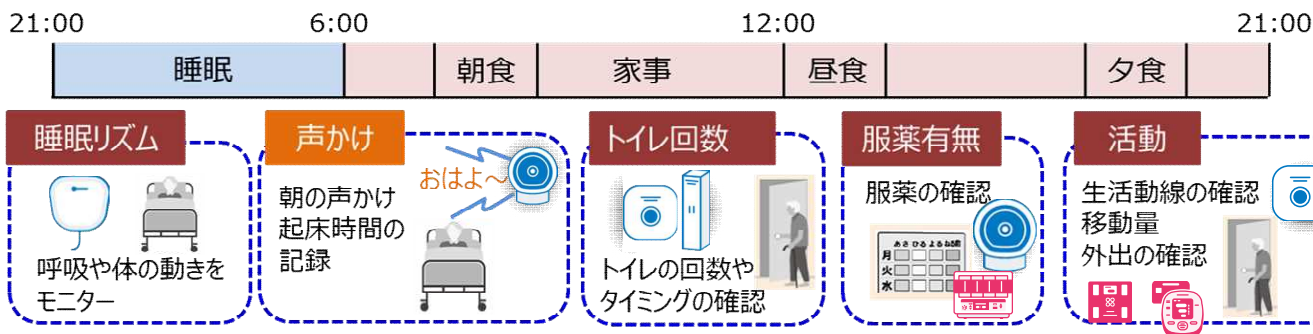
実施者名	パナソニック株式会社
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT家電／センサー情報から、地域包括支援センターの介護従事者の業務に必要なモニタリングデータを集約し、介護業務支援として有用なデータ提供を行う業務支援システムを開発する。</li> <li>豊田市地域包括支援センターと連携し、業務支援システムが、地域包括ケアシステムの実現に有用かを確認するための実証を行う。また、次年度からの事業化に向けて、アンケート調査を用いた実証総括と事業計画の指針の策定を完了する。</li> </ul>
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT技術を活用した高齢者の生活モニタリングにより、在宅高齢者への介護サービス品質の向上や介護業務の効率化を目指す</li> </ul>

(事業イメージ)

### 見守りICT機器で情報を集め、適切なケアの提供をサポート



#### <生活実態／健康状態の把握>



IoTを活用した新産業モデル創出基盤整備事業 /  
 研究開発項目⑥IoT技術を活用したライフデータの高度利用システムの開発  
 在宅高齢者向け高度見守りサービスに関する研究開発

## 関西電力グループのノウハウ（介護 × 警備）を活用し、 より質の高いケアとご家族への安心をお届けします。

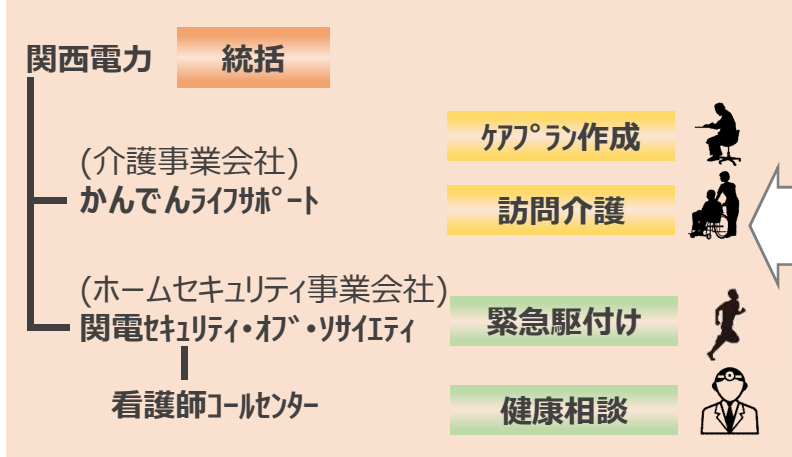
実施者名	関西電力株式会社
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、電気使用量をWEBで確認できるサービス「はぴeみる電」をご利用のお客さまに対して、電気使用量の一定割合変化や生活リズムの異変をお知らせする簡易な見守りサービス「はぴeまもるくん」を提供している。</li> <li>・ 今回、グループで有する“介護”や“警備”といった機能を付加することで、新たな見守りサービスの創出が可能かどうか実証を行うものである。</li> <li>・ 具体的には、IoT技術の活用によりご利用者の実態を詳細に把握することで、介護事業者にとってより質の高いケアの提供に繋がるような、また、ホームセキュリティ事業者にとって正確かつ効率良く安否確認ができるようなアプリケーションの実現を目指す。</li> </ul>
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅高齢者の日頃の生活リズム、バイタルサインの変化、睡眠状態等をデータで正確に把握することで、より質の高いケアが可能に。</li> <li>・ バイタルサイン等の異常が認められた場合には、ご本人の能動的な緊急呼び出しがなくとも、事業者側からの安否確認や駆付けが可能に。</li> </ul>

### サービスイメージ

利用者本人  
より高品質なケア



利用者家族  
見守りによる安心



データプラットフォーム	
睡眠	
温湿度	
血圧	
体組成	
活動量	
服薬	
生活リズム	
電気使用量	

### 検証内容

ケア品質の向上	データP Fから得られる情報を基に、利用者の日常の生活実態を把握し、ケアプランの改善や生活習慣のアドバイスを行うことで、ケアの質を高める
状況通知と緊急駆付け	離れて暮らすご家族へきめ細かく状況をお知らせし、異常値を検知した場合には安否確認・緊急駆付けを行う
評価	モニター（20名程度）へのアンケート調査により、本サービスの満足度や改善点、商品性など、実用化に向けた課題を整理する